

第22回宮城県産業振興審議会農業部会議事概要

令和2年5月28日
復興推進・企画班

1 骨子案に関する意見

No	委員（敬称略）	資料No	項目等	御意見・御質問	回答
1	伊藤 房雄	資料1 参考資料1	第2章 キャッチフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料1の他に挙げられた候補「共創力強化 ～ひと・もの・ちえを総動員した豊かな食・農づくり～」に魅かれる。共創力強化というシンプルな表現の訴えるチカラが強いのだと思う。ただし、これは国全体のキャッチフレーズに相当と思う。 原案の候補「多様な人材が未来へつなぐ 豊かなみやぎの食と農」も適切な表現になっていると思われるが、県民条例が基礎にあるので、「<u>県民の共感</u>と多様な人材が未来へつなぐ 豊かなみやぎの食と農」という下線部分を加筆しては如何か。 バックキャストによる食の将来像、農業の将来像、農村の将来像を明示することはとても大切で、本文の中にこの表現がきちんと県民に伝わるように取り扱っていただきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> キャッチフレーズを「<u>共創力強化</u>～多様な人材が<u>豊かな未来をつくる</u> みやぎの食と農～」と修正し、併せて解説を以下のとおり修正します。 (修正部分抜粋) 「(1行目)・・・農業・農村への消費者の理解と<u>協働</u>のもとに、・・・」 「(3行目)・・・農村が持つ機能の発揮を将来にわたって<u>共に創って</u>いくことを・・・」 各将来像につきましては、中間案作成の参考にさせていただきます。
2	斉藤 緑里	資料1	全体 第2章 キャッチフレーズ 第3章	<ul style="list-style-type: none"> シンプルでわかりやすいことが重要だと思うので、良いと思います。 「農業者だけではなく、次世代の若者も含め食と農に関わる全ての人材が結びつき、活躍する」とありますが、計画全体を眺めた時には（仕方ない部分もあるとはいえ）どうしても農業者寄りに感じてしまいます。 「県民条例基本計画」である以上、農業者以外がどう関わることができるのか（消費者として、あるいは交流人口として）、さらにわかりやすい形で計画に入れて頂きたいです（施策1、施策4、施策10あたりがそうだと思うのですが…パッと見てわかる感じで）。 	<p>上記(No.1)のとおりキャッチフレーズを修正します。また、施策1及び施策2に消費者視点の表現を加え、「施策1 県民による豊かなみやぎの食と農への理解促進」「①消費者による体験を通じた食に対する理解促進」「②消費者による県産食品の利用促進」、「施策2①消費者視点によるバリューチェーンの構築」に文言修正します。</p>
3	斉藤 緑里	資料1	第2章 将来像	<ul style="list-style-type: none"> 将来像として、「海・山・大地の豊かな恵みと東北の中心都市仙台を抱える強みが活かされ…」 「都市と農村の距離が近く、美しい風土や地域資源が豊富にある強みを生かし…」と入れて頂いているのは、個人的にとっても嬉しいです（これ、意外に実感していない？知られていないですが、100万都市仙台と宮城県の持つ大きなポテンシャルだと思っています）。 大区画、ロボット、IT、使える技術をうまく利用し、安定的に生産を行う先進的なスマート農業と、一方で、風景・なりわいの魅力で人を呼べる農村、その双方について大切に作る視点があるので良いと思っています。 	<p>御意見、ありがとうございます。</p>
4	郷右近 秀俊	資料1	第3章	<p>「Ⅲ ひと・もの・ちえを総動員した持続可能な農村の構築」について農村の前に「循環型」という文言を入れてはいかがか。</p>	<p>「持続可能な」の文言に「循環型」や「自ら課題を解決する地域の創出」など広い意味を含めていると認識しています。</p>
5	後藤 利雄	資料1	第3章 施策1の①	<p>食・農業・農村との協働 都市との交流に重点を置かれ過ぎてはいないか？ 協働の地域・農村社会は、福祉や公共益を行政に頼り切るのではなく、住民主体で担う覚悟が必要。 小規模多機能自治を具現化するためのサポートに農村政策はシフトすべきではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 都市との交流に重点が置かれ過ぎていないかという御意見を反映し、施策1①を地域内の消費者も含めた表現に文言修正します。（上記No.2参照） 中間案にて、施策10及び施策11の本文作成の参考にさせていただきます。
6	今野 高	参考資料4	I-1-① Ⅲ-10-①	<p>推進指標が似通っている。 I-1-① 農村地域と都市部との交流拡大の推進は、消費での交流 Ⅲ-10-① 交流拡大による関係人口の創出は、生産面での交流と、取り組み事項から読み取れる。 この2つの住み分けを、もっと明確にしたほうが良いのではないかと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施策1①を「消費者」の文言をいれた表現に修正します。（上記No.2参照） 中間案にて、施策1①及び施策10①の本文作成の参考にさせていただきます。
7	伊藤 房雄	資料1	第3章 施策4・施策10	<ul style="list-style-type: none"> 施策4のサブタイトルにある「…多様な人材の育成」→「…多様な人材の確保・育成」が適切だと思います。サブタイトルのすぐ下にある①には農業経営者の確保・育成と表現されているので。 同様に、施策10のサブタイトルも「…農村活性化人材の育成・確保」→「…農村活性化人材の確保・育成」と順番を修正しては如何。すぐ下の②では確保・育成となっています。 	<p>確保・育成に修正します。</p>
8	今野 高	資料1 参考資料3	第2章 主要目標 2・農業の担い手・農地の目標	<p>「認定農業者数の目標」 認定農業者の目標値調整中とあるが、実数だけでなく構成比を考慮する事が必要と思われる。同じような構成比ではなく、認定農業者の比率・主業農家比率・認定就農者率が高まる必要がある。</p>	<p>参考資料3及び中間案にて、販売農家を分母にした構成比を追加します。</p>

2. 中間案に関する意見等

No	委員（敬称略）	資料No	項目等	御意見・御質問	回答
1	伊藤 房雄	資料1	全体	・「人材」という表現が多用されていると感じました。「ひと」という表現で良い箇所は無理に「人材」をいう言葉を使わなくても良いではありませんか。	中間案作成の際、「ひと」という表現への置き換えについて、御意見いただいた視点で再度確認します。
2	斉藤 緑里	資料1	全体	・昨今の情勢から、withコロナ、afterコロナの視点を加えざるを得ないと考えます。（文言に入れる、入れないは別として） ・このコロナ禍は数か月程度で収束するという問題ではなく、「with」でどうあるべきか、また、「after」は社会の仕組み、価値観が大きく変化する可能性大だと思っています。まだうまく言葉になりませんが… ・全体の流れとして、自給率をあげること、国産、地産地消の重要性が高まるだろうと予想します。そうした中、豊かなみやぎの食と農を未来へつないでいく姿勢をしっかりと示す基本計画に仕上げたいと考えます。	中間案にて、施策2及び施策3③、施策10の本文作成の参考にさせていただきます。
3	斉藤 緑里	資料1	全体 (表現方法)	・みやぎに暮らすものとして、宮城の生産者さんが生産できない状態になることや、宮城の食材を食べていけないことは絶対に！望まないで（個人的に強くそう思っていますが、100%ではないにしても多くの方に賛同していただけだと思います）、『そのために、県としてはこっちの方向で行きます！』というメッセージがストレートに伝わるものにしたいと感じます。 ・計画の冊子を全部読む方は残念ながらさほど多くないと思うので、概要版などでより多くの人に訴えかける時、特に、農業者以外の人にも伝わる（&行動したくなる）形でのメッセージの発信を！と思います。	冊子の構成や内容の示し方等を工夫します。
4	後藤 利雄	資料1	全体	F (food)E (energy)C(care)自給圏の確立が、将来の農業農村施策の要となるべきだと思う。加えてE (education)も大切では。食農教育・農福連携等実践的学習の場としての農業農村を持続的に政策支援する必要がある。	中間案にて、施策1の本文作成の参考にさせていただきます。
5	斉藤 緑里	資料1	第1章	・人口減少による人材不足は今後も続くだろうと思いますが、一方で外国人労働者に人材の穴埋めを頼ることの危うさも露呈したと感じています（今回の鎖国状態がどのくらい続くかわかりませんが）。「多様な働き手」として、外国人、障がい者はもちろん、地域住民（シルバー人材、農業ボランティア、副業、それ以外etc）を活用する方策、新しい仕組みが必要。	中間案にて、「特定地域づくり事業協同組合」制度の動きを注視しながら、施策4③の本文作成の参考にさせていただきます。
6	斉藤 緑里	資料1	第1章	・食の外部化についても、外食は今回かなりの打撃を受けていますが、どの程度持ち直すことができるのか。今後は中食、ミールキット等がさらに伸びる可能性。withコロナ⇒afterコロナのニーズの変化を注視。	中間案にて、施策2①及び③の本文作成の参考にさせていただきます。
7	今野 高	資料1	第2章 主要目標 2・農業の担い手・農地の目標	アグリビジネス経営体数及び販売金額は、あえて外しているのでしょうか。アグリビジネス経営体は、販売農家数0.4%の約120経営体で 農業産出額約26%を担っている。この部分を強調すると「大規模化」だけを推進しているようにも受け取られてしまうため良くないとは思っております。	中間案にて、施策4の推進指標で設定する予定です。
8	伊藤 房雄	資料1	第3章 施策4・施策10	・人材の確保は大切です。それと同時に、適材適所と表現されるように、確保した人材を適所に配置する工夫・仕掛けが重要と思います。 ・併せて、人材育成を具体的にどう進めていくのか、上記の配置とともにその具体策が今回の基本計画のコア（核）になると思います。	中間案にて、施策4及び施策10の本文作成の参考にさせていただきます。
9	松木 弥恵	資料1	第3章	SDGsのゴールとして どの目標がどの計画案に盛り込まれるかアイコンを並列して表示してはいかがでしょうか。	中間案にて各施策に表示します。
10	後藤 利雄	資料1	第3章 施策12の①	再生エネルギー 小水力発電の限定的利用に留まらず、風力・太陽光・バイオガス・沿岸部での潮力等、総合的な発電事業を新たな地域産業として位置付ける必要があるのではないか。営利目的ではない地域住民還元型NPO法人の立ち上げを政策支援すべきではないか。	取組の参考にさせていただきます。
11	千葉 卓也	参考資料2	食の将来像	・「食材大国みやぎ」としての県内農産物生産が県内外の流通で県内消費が何割消費しているか県民に情報がないよう気がします。やはり、県内生産農産物の消費率を上げる方法を販売店・量販店や飲食店（飲食店では地場産提灯といった方法）など、県内産の仕入率を高める仕組みを作り、県民に発信していく事によって食材大国みやぎの応援団を地元から創出し盛り上げ、県内外流通の拡大を目指していく。 例えば、平均寿命が全国47位の青森県では県民1人あたり野菜を350g食べる事を県と販売店が協力しイメージUP戦略に取り組んでいます。	中間案にて、将来像及び施策2の本文作成の参考にさせていただきます。

12	千葉 卓也	参考資料 2	農業の将来像	・これからは、スマート農業や大規模化・自動化など大きく変わる時代になり、今まで10年かかることが、短期間で出来ることになると思いますが、水田等は中山間地・内陸地や未整備・1ha以下では作業効率が悪いので区画の整理拡大を行う必要があると考えます。	中間案にて、将来像及び施策5の本文作成の参考にさせていただきます。
13	千葉 卓也	参考資料 2	農業の将来像	・人材確保の中で技能実習生（外国人材）がありますが、宮城では特定技能が特区のみに限られているため、早急に宮城県も農業分野の対応をお願いしたいです。（特定技能は日本語レベルN3以上なので言葉の壁が少なく作業説明・理解が早い）	中間案にて、将来像及び施策4③の本文作成の参考にさせていただきます。
14	千葉 卓也	参考資料 2	農村の将来像	・昨年は全国各地で台風など自然災害による被害が多発しており、今後もあらゆる想定外の災害に備える必要があります。補償制度推進や政策等の生産者の支えとなるものや、生産者自身による防災意識の見直しが必要です。減災対策や各地域での防災マニュアルや個々の災害リスクマネジメントと事業継続計画等、生産者自身が学ぶ機会も必要なのではないでしょうか。	中間案にて、将来像、施策3及び施策4①本文作成の参考にさせていただきます。
15	松木 弥恵	参考資料4	「GAP, HACCP, ～使用の推進」について	例えば、道の駅や直売所に並ぶ地元生産者の方々の野菜について、農薬や殺虫剤の使用基準をどう決められているのか心配な時があります。	御意見として参考にさせていただきます。
16	松木 弥恵	参考資料4	「各農業者の確保・育成」	農業に関する学校は出ずとも「農」に興味ある方々は沢山います。そういった人々とのマッチングも具体的に進めてほしいと思います。	中間案にて、施策4の本文作成の参考にさせていただきます。
17	今野 高	参考資料4	I-2- (①・②・③)	推進指標に「契約栽培出荷額等」も調査可能であれば入れても良いと思います。 ・①のバリューチェーンと②の販路拡大と③の実需者との連携を進めた結果として、農産物の取引契約栽培に繋がる場合が多いと思います。よって「契約栽培産出額（米・野菜・花き・畜産）」も一つの指標になると思います。調査が可能か否かでご検討ください。	中間案にて、施策2の推進指標設定を検討させていただきます。
18	今野 高	参考資料4	I-2-①	「商品開発」「人材育成」「販売・商談」「物流」は自社内で行うケースと社外に委託・支援をお願いするケースの2パターンがあります。 自社内で行う場合「商品開発」は研究費・研究体系。「人材育成」は、経営者や幹部のマネジメント能力・研修体系。「販売・商談」は、受発注・伝票など事務のIT化。 「物流」は車両・ピッキングデータのIT化。などが必要となります。 今回の詳細施策に反映を検討いただければと思います。	中間案にて、施策2の本文作成の参考にさせていただきます。
19	今野 高	参考資料4	II-4-①	「意欲ある農業経営者の確保・育成と円滑な経営承継」の取り組み項目が、経営体で分けてあるのは良いと思います。一方で「事業規模拡大・新規部門参入」「事業規模は現状維持や縮小でも、事業内容を変え利益を向上する」という2パターンで意欲的に取り組むケースがあると思います。事業規模を縮小しても支援できる取り組みを盛り込んでいた方が良いと思います。	中間案にて、施策4①の本文作成の参考にさせていただきます。
20	今野 高	参考資料4	II-4-②	・企業の参入だけでなく、県内法人に対する企業資本提携（投資）・外部ファンドの活用など資本力強化も取り組み事項に検討をお願いいたします。 ・市町村を超えた農場展開や他県生産者との協同経営などの取り組みも必要と思われる。	中間案にて、施策4①及び②の本文作成の参考にさせていただきます。
21	今野 高	資料1 参考資料 2 参考資料 4	II- (5・6・7)	・関連資料の中で「スマート農業先進県を目指す」は、水田・畜産だけのように読み取れる。 ・園芸振興の中では「スマート農業の導入」となっている。 『スマート農業先進県を目指す』という旗揚げは非常に重要と思われる。 よって、II-5-①の『生産性向上のためのスマート農業技術の実装』の目的及び内容に、園芸も組み込み、さらに『スマート農業先進県』を強調した方が、今後の就農意欲・企業参入・既存経営体の事業拡大に結びつくと思われる。 ・無人基地局は市町村単位と成りうるため、市町村への啓蒙活動が必要と思われる。また、無人基地局設置が遅れる場合も想定されるため、WiFi機能等通信環境を農場毎に整備する活動も必要と思われる。 ・目的及び内容に記載する内容とは異なる細かい点かも知れませんが、自走式ロボットを導入する場合、特に施設園芸の中で、土地の舗装化も重要となる。農地法の解釈で、各市町村や農業委員会毎に施設内や土地全体の通路の舗装化の見解が違う。県としての見解の統一がスマート農業を推進すると思われる。	中間案にて、施策5、6及び7の本文作成の参考にさせていただきます。

22	今野 高	参考資料4	II-7- (①・②・③)	<p>「先進的大規模拠点を核とした園芸産地の確立」の内容は、単一品目の大規模経営をイメージしているように読み取れる。単一品目だけでなく、複数品目経営体の視点も必要と思われる。</p> <p>単一品目大規模農場の販路は商圏を広げる必要があり、競合も増える。(量を販売するため)</p> <p>複数品目大規模農場は、取引先に複数品目を販売する事ができるため、年間取引にもなりやすく、商圏も東北内など小さくし物流課題にも対応しやすい。</p>	中間案にて、施策7の本文作成の参考にさせていただきます。
23	今野 高	参考資料4	III-10-③	<p>「地域コミュニティ組織の強化」</p> <p>地域の定義を、行政区・市町村単位だけにしないで、宮城県内全体も考慮した方が良いと思われる。例えば「こせがれネットワーク」のように市町村を超えて、「目的別に」集うネットワークが近年増えている。また、農業者だけでなく関連企業や消費者が関わっているネットワークも存在する。そのようなコミュニティも地域の定義に加える事をご検討ください。</p>	中間案にて、施策10の本文作成の参考にさせていただきます。
24	今野 高	参考資料4	III-11- (②・③)	<p>上記項目のいずれかに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃校等利活用の取組み支援(過疎化で市町村の固定資産が休眠化する事を防ぐ) <p>等を加える事をご検討ください。</p>	中間案にて、施策11の本文作成の参考にさせていただきます。
25	今野 高	参考資料4	III-12-③	<p>「野生鳥獣による農作物被害対策の強化とジビエ利活用の拡大」</p> <p>鳥獣対策にもスマート(農業)が今後活用されてくる。こういう地域こそ無人基地局が必要となる。この目的及び内容にもスマート農業を関連付けると、無人基地局の設置推進にも繋がる。</p>	中間案にて、施策12③の本文作成の参考にさせていただきます。
26	今野 高	参考資料4	III-13-①	<p>防災対策にもスマート(農業)が今後活用されてくる。こういう地域こそ無人基地局が必要となる。この目的及び内容にもスマート農業を関連付けると、無人基地局の設置推進にも繋がる。</p>	中間案にて、施策13の本文作成の参考にさせていただきます。
27	今野 高	参考資料4	III-13-④	<p>集落排水だけでなく、草刈などにも防災対策にもスマート(農業)が今後活用されてくる。こういう地域こそ無人基地局が必要となる。この目的及び内容にもスマート農業を関連付けると、無人基地局の設置推進にも繋がる。</p>	中間案にて、施策13本文作成の参考にさせていただきます。